

いつもJA津安芸をご利用頂きありがとうございます。

JA津安芸管内の農業情報や農業を営む担い手の皆様に少し

でも役に立つ情報をお届けさせていただきます。



TAC課

vol.2
H28.5.6
発行

早めの中干しで過剰生育を抑制しよう！！

今年の長期予報では、エルニーニョ現象が弱まり暑い夏になると予想され、
登熟期の高温による白未熟粒の発生が心配されます。

また、田植え後に気温が徐々に高くなると分げつが盛んになり、
いつの間にか過剰な分げつになっている・・・ということもありそうです。

早めに中干しを開始することで、過剰生育を抑え登熟期の高温に負けない
強い稲づくりに取り組みましょう。



早ければ5月中に中干し

中干し <適正な籾数を目指す>

分げつが目標茎数の8割になれば、中干しを開始します。中干しが不十分になると茎数・籾数過剰となり
倒伏や白未熟粒の発生に繋がります。中干しを行うことで適正な籾数を目指すことが大切です。

例えば・・・

適正な籾数は、30,000粒/m²と言われています。籾数を30,000粒/m²つくるためには、
茎数が350本～400本/m²必要になり、60株/坪植えて1株に19本～22本の茎数になります。
目標茎数が1株19本～22本であれば、中干しを開始するタイミングは茎数が1株に15本～17本になります。
圃場では小さい分げつが発生し、実際の茎数は意外と多くなっています。
過剰分げつを抑えるため、遅れずに中干しを実施しましょう。

田んぼに入り茎の本数を数えましょう！！

茎数50株/坪植えて18本/株 60株/坪植えて16本/株を目安に中干しを開始！

珪酸質資材の散布

中干しをすると、窒素の吸収が抑えられ、ケイ酸や加里の吸収が多くなってきます。
この時期にケイ酸質資材を散布することによって、稲体の活力低下を防止するなどの
効果があります。また、葉の垂れ下がりを抑え光利用率が増進し、登熟歩合を向上さ
せます。珪酸質資材を積極的に投入し、稲の一生に必要な不足養分を補いましょう。



けい酸加里
20kg～40kg/10a